

令和6年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立山王小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・教師が意図的に話し合い活動を取り入れることで、児童が他者との交流を通して自分の考えを広げようとする様子が、発言やノート記述等から見られるようになった。また、自分の考えを表現することにより必要感をもたせることができ、話すことや書くことの資質・能力の向上にもつながった。
- ・国語辞典を机の横に掛け、日常的に使えるようにしたことで、国語以外の時間でも辞典を使う児童が見られるようになった。

(2) 課題

- ・語彙の少なさや読書経験の少なさ等から、登場人物の気持ちを読み取ったり、文構造を理解したりする力が低い児童がいる
- ・めあてや提示された視点に沿って、自分の考えをまとめたり学習を振り返ったりすることができていない児童がいる。様々な文章記述の仕方を経験させたり、文章例を参考にしながら考えを記述したりする等、スモールステップでの表現活動を意図的に取り入れていく必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	○全ての観点において、目標値、全国平均値を上回っている。 ○領域別正答率で見ると、「書くこと」で9pt、「読むこと」で5pt上昇している。 ○他の領域に比べ、「情報の扱い方に関する事項」の正答率は低いものの、目標値や区、全国の平均値を大きく上回っている。 ○全体の校内正答率は前年度よりも1.3pt上昇している。		
第5学年	○観点別では、どの観点も10pt以上全国平均を上回った。 ○領域別では、どの領域も10pt以上全国平均	○全ての観点において、目標値、前年度平均値、区、全国平均値を上回っている。 ○「書くこと」の観点で	

	を上回った。特に「我が国の言語文化に関する事項」では、20pt 以上上回った。 ○問題の内容別では、どの問題も全国平均を上回った。「言葉の学習」が7pt と、他の問題内容に比べると上回りが小さい。	は、18pt 上昇している。 ○「書くこと」の中でも、「文章を書く」に関する内容は、他の領域に比べて正答率は低いものの、目標値や区、全国の平均値を大きく上回っている。 ○全体の校内正答率は5.1pt 上昇している。 (第4学年時)	
第6学年	○領域別では、すべての項目で区の平均を上回っている。 ○領域別正答率の中で低い数値となっている領域は、「情報の扱い方に関する事項」であり、最も高い「言葉の特徴や使い方に関する事項」と比較すると、16.5pt の差が見られる。 ○内容別の正答率においても、全ての項目で区の平均を上回っている。 ○令和4・5年度と経年比較すると、すべての領域・内容別正答率について、目標値や平均を上回る結果となった。ただし、クラスごとに分析していくと、「漢字の読み書き」「敬語」「心情を捉える」「文章を書く」ことにそれぞれ課題が見られる。	○領域別では、すべての項目で区の平均を上回っている。 ○領域別正答率の中で低い数値となっている領域は、「書くこと」72.6%、「話すこと・聞くこと」78.8%である。最も高い「我が国の言語文化に関する事項」と比較すると、24.5%程の差が見られる。 ○内容別の正答率では、「学校をしようかいする新聞を作る」が最も低く、70.8%である。また、「言葉の学習」の「連用修飾語」については国語の全体の中で唯一、目標値を下回っている。 (第5学年時)	○概ね△。思考判断表現について≡が多い。 ○「話の内容を聞き取る」の中の「互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている」(記述) ○「漢字を書く」の中の「第3学年に配当されている漢字を正しく書いている。」(短答) ○「調べた結果の表を元に文章を書く」の中の「自分の考えとそれを支える事例との関係を明確にして書いている。」(記述) ○▼はない。 ○校内正答率は前年比+1.5pt (第4学年時)

(2) 分析 (観点別)

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・目標値、区平均、全国平均を上回っている。 ・前年度校内平均を0.7pt下回ったものの、全国平均を8pt以上、上回っており、概ね良好な結果と言える。 ・クラス間での差を見ると、最大2.9ptと大きくなく、学年全体で良好な結果が出せていると考えられる。 ・言葉の学習で、ローマ字表記を読む問題において間違いが目立ち、目標値、全国正答率ともに下回る正答率となった。	・目標値、区平均、全国平均を上回っている。 ・前年度校内平均を4.3pt上回っており、概ね良好な結果といえる。 ・クラス間の差を見ると、1.2ptと大きくなく、学年全体で良好な結果が出せていると考えられる。 ・説明文の問題で、「中心となる語や文を見つけて要約する」という主題に対して、他の問題よりも正答率が低くなっていた。	・目標値、区平均、全国平均を上回っている。 ・前年度校内平均を5.1pt上回っており、概ね良好な結果と言える。 ・クラス間の差を見ると、9.3ptと、他の観点に比べて大きく、授業改善に向けた課題の一つと言える。 ・文章を書く問題において、「指定された長さで文章を書く」、「自分の考えたことを明確にして文章を書く」についての出題で間違いが多く、目標値から3ptほど下回った。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値、区平均、全国平均を上回っており、概ね良好と思われる。	目標値、区平均、全国平均を上回っており、概ね良好と思われる。	目標値、区平均、全国平均を上回っており、概ね良好と思われる。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うように指導する。 ○筆順に沿って丁寧に書写する力を育て、文章の中で既習漢字を使えるようにする。	○伝えたい事柄について、順序を考えて話すことができるように、話型を示しながら指導する。 ○文章の構成で、「中」の部分詳しく書くために、助詞の活用や文章の構成を考えさせる。	○楽しみながら読解力を高めていくために、カード等を活用して読書に親しめるようにする。 ○学習課題に粘り強く取り組めるように、学習計画を児童と話し合いながら作成し、見通しをもてるようにする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○「書くこと」に関する技能が他に比べて低いため、日	○聞いたこと、考えたこと、読み取ったことを言語化	○自分の考えなど、文章を書くことに消極的な児童が

記の宿題だけでなく、教科横断的に自分の考えなどを書く機会を意識的に増やしていく。 ○国語辞典を日常的に使う習慣を作り、他教科でも活用することで文章の中で使える語彙を増やしていく。	し、文章に書き表したり、伝え合ったりする力に課題がある。そのため、ペア学習やグループ学習を授業の中で意識的に取り入れ、考えを交流する場を通して、自信をもって自分の考えを表現していくことができるようにする。 ○本や新聞などの資料から、中心となる語や文を見つけ、要約してまとめたり、それに対する自分の考えをもったりする機会を、授業や朝学習の時間に取り入れていく。	多い。そのため、書く題材を身近なものにしたり、ICTを活用したりすることで、主体的に文章を書く活動に取り組めるようにする。 ○国語の学習で得た力を、他教科での自己表現に生かせるよう指導していく。
---	---	---

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○語彙を増やしたり、正しい言葉の使い方を理解したりしていく必要がある。プリントを用いて繰り返し指導する。また、「話すこと」や「書くこと」の学習において文例を用いることで正しい言葉の使い方を押さえ、児童自ら使用できるようにしていく。 ○読書経験を積み重ね、語彙を増やすことができるよう、単元学習の中で並行読書環境を整え、様々な図書に親しめるような活動を意図的に取り入れる。	○毎時間、自分の考えを記述する時間を確保する。また、書き方の例や視点を明確に示すことで、児童が課題や問題の意図に沿って記述したり、自信をもって表現したりできるように指導していく。 ○「クオタイム」の朝学習を使って短時間で取り組める書く活動や読む学習を行い、楽しみながら書くことや読むことに慣れ親しむとともに、文構造を捉えられるよう指導する。	○児童の疑問やできるようになりたいこと、難しいと感じて不安なことに寄り添いながら、児童主体の課題を設定する。また、児童が興味関心をもてるような教材の提示、発問を行う。 ○タブレットを活用して思考を整理したり、友達と交流して学び合うよさを味わったりできるよう、学習方法を工夫する。また、学び合うよさを味わい、集団で学ぶ意欲を高められるようにする。 ○学習の振り返りシートを工夫し、児童自身の学びの成果や達成度が視覚的に捉えられるような構成にする。